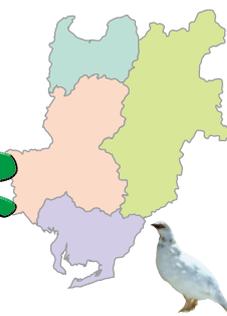




国民の森林・国有林

広報

# 中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

http://rinya.maff.go.jp/chubu/



## 平成23年度 中部森林技術交流発表会

局長賞（優秀賞）を受賞した皆さん

## 平成23年度中部森林技術交流発表会

更なる林業技術の発展に向け20課題が発表される



2011・国際森林年

(P2~5に関連記事)

### 主な項目

平成23年度中部森林技術交流発表会を開催	..... P2~5
各地からのたより	..... P6~7
風景紀行「御嶽山界限」	..... P8

**試験研究・林業体験活動等を発表**

中部森林技術交流発表会

【指導普及課】一月三十一日から二月一日

にかけて、中部森林管理局大会議室において、「平成二十三年度中部森林技術交流発表会」を開催しました。

この発表会は、管内（富山県、長野県、岐阜県、愛知県）の国有林及び民有林の行政機関、大学、高等学校、団体等が、日頃から取組んでいる森林・林業に関する試験研究、林業体験活動・ふれあい活動等の取組みについて発表し、更なる森林・林業の推進とこれら成果の普及に資することを目的とし、毎年開催しているもので、今年度は森林管理署等国有林関係から十課題、県等民有林関係等から三課題及び学校関係等から七課題、併せて、計二十課題の発表となりました。

一日目の冒頭には、城土局長から「昨年は、国連が定めた国際森林年であるとともに、森林・林業再生プランに基づく、森林・林業再生元年として、様々な施策が大きく動き出した。特に、森林技術分野においては、准フォレストをはじめとする人材の育成や、再生可能エネルギーの導入促進に対する期待が高まっているほか、木材の多角的な利用に係る研究・技術開発などの具体的な取組みを推進する必要がある、このことは、まさに当発表会の開催目的に合致するもので、現地の技術ニーズを踏まえた研究成

果の発表並びに相互交流が、今後も続けられることを願う」との挨拶があり、その後、国有林関係から、森林整備、木材利用、国土保全など幅広い分野の発表があり、引き続き、民有林関係から森林施業、森林環境教育等の発表、名古屋大学、信州大学の学生により発表が行われました。

今年度は、長野市立柳町中学校二年生の宮澤さんが、小学生のときから三年間かけて戸隠森林植物園で調査した「野鳥の生活型から見た年間変化」を発表し、審査員の先生方からは「年齢を感じさせない。」「報告の内容がしっかりしていた。」「発表が堂々としていた。」といった感想が出されていました。

二日目は、長野県林業大学校、木曽青峰高校、岐阜県立森林文化アカデミー、加茂農林高校、飛騨高山高校生徒により、それぞれの勉学の成果が発表されました。

発表終了後、計画部長から国有林の部の審査結果として優秀賞三課題が発表され、その後、審査委員を代表して、信州大学大学院加藤正人教授並びに名古屋大学大学院山田谷三准教授から各課題に対する講評をいただくとともに、「長期の継続した試験ができること。施業履歴がしっかり残っていること。この二つは国有林の貴重な宝である。モデルを作ったコミュニケーションをすることが研究の常道であるが、モデルの基となる地道な

データの収集・蓄積が大事である。それ故に国有林の行っている試験・研究の意味は大きいので、今後とも頑張っていたきたい。」との、コメントをいただきました。

引き続き、民有林発表者へ林業振興賞を、学生発表者へ局長奨励賞の贈呈を行ったあと、国有林発表者の表彰が行われ、閉会しました。

今回は発表者・傍聴者等を含め約二百五十名の参加者による盛大なものとなりました。今後とも森林・林業技術の推進と普及に向け、各署等での技術開発、森林ふれあい活動、地域との連携など、積極的に取組んでいくことにしています。

発表者、課題名及び受賞者は次のとおりです。

**国有林の部**

◎局長賞 優秀賞

- ・「檜皮の森」での活動を振り返って 金敏博（南木曾支署）、友井辰哉（公益社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会）
- ・間伐等における末木枝条の有効利用について

- ・西方雄一郎、齋藤由晃（木曾署）
- ・「ふれあいの森」より広がる地域との絆 「段戸国有林 漁民の森林づくり活動」 鈴木永江、稲垣正紀（愛知所）

- ◎局長賞 努力賞
- ・広葉樹植栽地の育成方法の検討 山口穰、岡本守（北信署）
- ・東信森林管理署管内における松くい虫防除対策の取組について 田中良太、千島佑太（東信署）

- ・本数調整伐における現地発生材の有効利用について
- ・中島和美、俣野篤樹（南信署）
- ・モデル林における「低コスト・高効率作業システム」五カ年の変遷 市川久志、渡邊修（木曾署）
- ・植生マツト伏工箇所における在来草本類の根系発達状況について 久古和貴（中信署）、木村元由輝（株式会社新日本緑化）

- ・上矢作地区における緑化工法の一考察 野中圭太、山口元（東濃署）
- ・長伐期施業における樹冠長率を指標と



発表の様子

した森林管理技術の開発  
 早川幸治（森林技術センター）、横井  
 秀一（岐阜県立森林文化アカデミー）

■民有林の部（林業振興賞）

・ロープによる熊剥ぎ対策の効果につ  
 いて  
 伊関仁志（独立行政法人森林総合研  
 究所森林農地整備センター岐阜水源  
 林事務所）

・平成二十三年度高等学校初任者研修  
 の取組

青柳智司（長野県林業総合センター）

・戸隠森林植物園の鳥類相「野鳥の生  
 活型から見た年間変化」  
 宮澤小春（柳町中学校二年生）

■学生の部（局長奨励賞）

・段戸国有林のヒノキ人工林における  
 広葉樹の多様性について

香坂紗由実（名古屋大学農学部四年  
 生）、橋本里美（名古屋大学大学院二  
 年生）

・ラジコンヘリコプターを用いた森林  
 材積推定に関する研究

松尾 好高（信州大学四年生）

・オーストリア林業から学ぶ

伊藤圭介、平沢公彦、堀部泰正（長  
 野県林業大学校二年生）

・宇宙種の発芽実験「宇宙農林業の可能  
 性」

古田啓悟、奈良尾充洋、高木勝大、



南木曾支署の金さんと  
 全国社寺等屋根工事技術保存会の友井さん

◆国  
 有林の部  
 局長賞 優秀賞

◆発表会の一コマ

片山雄太（長野県木曾青峰高等学校森  
 林環境科二年生）  
 ・「森林・林業再生プラン」が林業事業  
 体を与える影響「アンケートとヒアリ  
 ングを通して見えてきた林業事業体の  
 変化」  
 測上英明（岐阜県立森林文化アカデ  
 ミー森と木のクリエーター科二年生）  
 ・里山復活大作戦「元氣盛り森プロ  
 ジェクト」  
 尾崎里沙、市原尚己（岐阜県立加茂農  
 林高等学校林業工学科二年生）  
 ・自分たちでつくる森づくり  
 反中良太、野村拓也（岐阜県立飛騨高  
 山高等学校環境科学科三年生）



愛知所の鈴木さん、稲垣さん



木曾署の齋藤さん、西方さん



長野県林業総合センター 青柳さん



独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センター  
 岐阜水源林事務所 伊関さん

民有林の部  
 林業振興賞

学生の部  
局長奨励賞



名古屋大学 香坂さん



柳町中学校 宮澤さん  
(中学生とは思えぬほどの堂々とした発表でした)



長野県林業大学校 伊藤さん、平沢さん、堀部さん



信州大学 松尾さん



岐阜県立森林文化アカデミー 瀬上さん



木曾青峰高等学校  
古田さん、奈良尾さん、片山さん、高木さん



飛騨高山高等学校  
野村さん、金桶さん、反中さん、松原さん



加茂農林高等学校 尾崎さん、市原さん



審査員の皆さん



城土局長あいさつ



講評を行う名古屋大学  
山田准教授



講評を行う  
加藤信州大学教授



審査結果を発表する  
宿利計画部長



協定書を手に握手する城土局長と平林村長

平成二十四年一月一七日、中部森林管理局と長野県安曇郡松川村は「安曇野まつかわ馬羅尾高原」郷土の森の協定の締結を行いました。

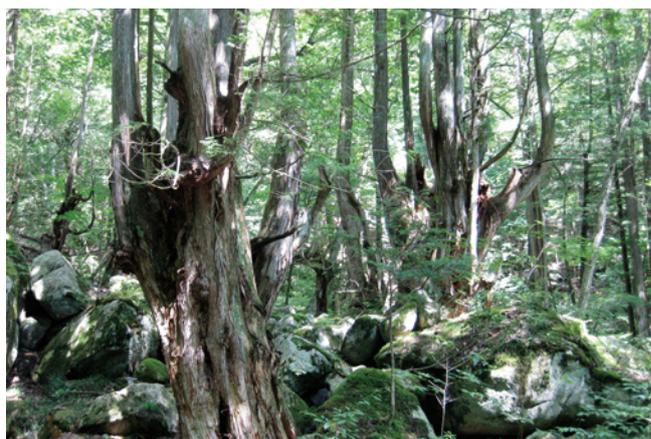
郷土の森は、地域の象徴として意義のある森林を維持しつつ、保護することを目的としており、今回の協定では当局管内の中信森林管理署馬羅尾国有林に生育している「あがりこサワラ」を郷土の象徴として維持保存することとしました。

樹木を台伐りすることにより、萌芽し奇怪な樹形となるものを一般的に「あがりこ」と呼んでいますが、萌芽力の弱いサワラの「あがりこ」は非常に珍しく、あがりこ型樹形のサワラ林は、有明山山麓（馬羅尾国有林）のほか、安曇野市の中房国有林、山梨県山梨市に学術保護林だけで存在が確認されていますが、特に当局管内の馬羅尾国有林に確認された「あがりこサワラ」は集団的な巨木林として歴史的価値が高い森林であることや、地域の振興に寄与する森林であることから郷土の森として保存するため協定を締結したものです。



中部局森林管理局では、この貴重な森林について、その重要性や歴史的価値などを考慮しつつ、地域の皆さんと連携して維持保全に努めています。

あがりこサワラ



あがりこサワラ

### 国有林間伐推進コンクール

## 愛宝産業が 林野庁長官優秀賞を受賞

「販売課」間伐の優良事例の普及を図るため、平成二十三年度も林野庁で国有林間伐推進コンクールの募集が行われました。

今年度は七月から募集を行い五事例の応募がありました。九月下旬に審査を行い、北信森林管理署で実施の長野森林組合、南信森林管理署で実施の平澤森林産有  
限会社、飛騨森林管理署で実施の有限会社愛宝産業、岐阜森林管理署で実施の南  
ひだ森林組合の四事例を局長賞に選定、その四事例について林野庁長官に推薦したところ  
です。

林野庁では十二月に審査が行われ、愛宝産業の事例が高性能林業機械を積極的に導入し、それを作業システムへ効率的に組みあわせると共に専門のオペレーターを配置して、生産性の向上と低コスト化を実現したことが高く評価され優秀賞を受賞することとなりました。

この受賞により当局から推薦した事例は、平成二十年度から四年連続で林野庁長官賞を受賞したこととなりました。

今回は、造林・生産関係業務打合会議に合わせて関係者が集う一月二十五日、城土局長から愛宝産業の愛知社長に長官賞の授与を行いました。



林野庁長官優秀賞を手にする受賞者



高性能林業機械による作業状況

### 各地からのたより

## 地域と連携した国有林野事業 を目指して

「南信署」十二月二十日、信州大学で第二回「伊那谷の林業を考える研究会」が開催されました。今年度は「適正な森林管理と計画的な実施の方向に向けて」を共通テーマに、講演二題と発表三題が行われ、伊那谷地域の林業関係者及び信州大学の学生約百三十名が参加しました。

講演者として林野庁林政部経営課の清水林業経営指導官より「提案型集約化施策の推進と施業プランナーの育成について」と題し、民有林、国有林の枠を越えた連携と、それらを実行していく人材の育成が必要であると話し、その具体案を提示しました。これに対し、参加者からは「今年度改正された補助金制度の交付条件を、全国一律でなく各地域に合わせた柔軟なものにして欲しい。」といった地域産業の視点に立った意見が出されました。また、発表者の一人として、当署からは佐田森林ふれあい係長が「伊那谷における国有林の歩みと展望」と題し、昭和中期の伊那谷地域の国有林について振り返った後、現在の事業と今後の展望について発表しました。

最後に、研究会の事務局である伊那谷流域林業活性化センターの林理事長から「このような情報交換の場を通し、信州



管内の国有林について紹介する森林ふれあい係長

大学の学生など若く柔軟な意見を取り入れたい。」と今後の研究会存続への意欲が示されました。

今回の研究会では様々な立場から国有林に対する貴重な意見を聞くことができ、林業に関わる地域住民の国有林に対する期待を改めて実感する機会となりました。

当署では今後、民国連携による共同施業団地の設定も視野に入れ、地域とつながりのある国有林野事業を目指していきたいと考えています。

## 「国有林で働く」魅力を紹介

「南信署」平成二十四年一月二十日、信州大学農学部森林科学コース二年生の学生三十八名を対象に南信森林管理署において、職員による業務紹介を実施しまし

た。この取組みは平成十六年度から開始され、今年で七回目となります。

署長による国有林事業の概要説明では、特に近年注目されている「森林・林業再生プラン」について、補助金制度の改正や民国連携による森林施業の必要性などに焦点をおいた説明等を行い、森林官、治山第二係長、販売係長からは、各業務の具体的な内容やその仕事の森林・林業における役割について説明し、さらに森林ふれあい係長から林野庁の採用情報について説明を行いました。

講義終了後の質疑応答では、学生から「森林官は一人で入山するのか。安全対策はどのようにされているのか。」といった森林官業務に関する質問があり、授業に実技を取り入れている信州大学農学部生の林業の現場に対する興味・関心の高さがみられました。

また講義内容についてのアンケートでは、多くの学生から「国有林について具体的にどのようなことを行っているのかわかる良い機会になった。」「林野庁に大変興味を持った。」「今後も続けて欲しい。」といった意見をいただきました。

当署にとつて信州大学農学部は距離だけでなく、森林・林業に携わるといふ共通点を持った身近な存在です。今後ともこのような機会を通じ、学生達に国有林野事業の魅力を伝えることで、次世代の担い手を育む一助にしていきたいと考えています。

# シリーズ 現場最前線

## 豊かな森林・

### 開かれた国有林を目指して

「木曽署上松造林班」当署の上松地区は、旧上松営林署が管轄した地域で、南小川・北小川・駒ヶ岳森林事務所で担当する上松町一円の一〇、八一六畝の国有林を管理しています。

当地区の国有林は、木曽川右岸の日本三大美林の一つで学術的にも価値の高い木曾ヒノキの森林を有する赤沢自然休養林を中心とした地域と、木曽川左岸の中央アルプス県立自然公園の一部となる木曾駒ヶ岳西斜面の山岳地帯であり、水土保持林（六十一％）・森林と人との共生林（二十九％）・資源の循環利用林（十％）に機能分類された森林の機能を高めるべく多種多様な森林整備を行っています。

上松造林班は昨年度まで南小川・北小川・駒ヶ岳の三班十三名体制で業務を行っていましたが、班の再編により本年度四月から一班八名体制（夏場は臨時作業員二名を含め十名体制）で、木曽署一番の大作帯となり業務を行っています。

当班の業務は、夏場は年間十万人以上の方が訪れる、森林浴発祥の地としても知られる赤沢自然休養林の遊歩道の点検・整備、景観の整備作業を主に、獣害

防除、歩道整備、収穫調査、境界巡検、森林保全管理、林道維持修繕業務を行い、冬場は除伐、除伐2類、枝打ち等の造林事業を主とした多様な業務を行っています。

新班体制となり、九ヶ月余り経ちましたが、管轄範囲が広域で大作帯となり、大変なこともあります。毎朝、班長を中心として作業内容等綿密な打合せを行い、安全第一で業務に当たっています。



上松造林班の皆さん

また、緑十字の日に行う安全懇談会は、安全推進員が中心となり進行し、前月の反省、当月の作業に対する安全目標

を決めるなど、活発な話し合いが行われ安全活動を推進しています。

今後も、森林の機能を十分発揮できる山造り、赤沢自然休養林を介し開かれた国有林を目指し、皆一丸となり安全作業で、より良い山造りに励みたいと考えています。

## 人のうごき

### 中部森林管理局人事

二月一日付

▽木曽森林管理署南木曾支署業務課経営係（林野庁森林整備部治山課施設実行班治山指導係） 小山 勉

▽岐阜森林管理署総務課付（岐阜署総務課経理係長） 湯浅 正明

▽退職（中信署） 一月三十一日付 安藤 成章

## 行事・会議等の予定

◎森林・林業社会貢献活動表彰式

3月8日 長野市

◎森林ふれあい講座

3月10日 瀬戸市（森林交流館）



**御嶽山飛騨側登山口  
(落合国有林)**

「岐阜署」信濃の民謡木曾節では「木曾の御嶽ナンジャラホイ」と歌われる霊峰御嶽山は、岐阜県下呂市小坂町の落合国有林にある濁河温泉は、飛騨側からの御嶽山登山口として古くから知られています。

JR高山本線飛騨小坂駅前商店街には、「杣人の郷、小坂」と銘うった絵が商店等のシャッターに、川狩り・下刈作



小坂駅前商店街の様子

業・森林鉄道等の絵が描かれ古くから林業が盛んであったことを偲ぶことができます。

これは平成四年九月、飛騨川に架かる「きこり大橋」の竣工を記念し駅前通り整備の一環として描かれたものであり、現在でも六軒の商店・車庫等に残っています。

JR飛騨小坂駅から濁河温泉までの道中約三八キロメートル(県道四四一号线)は、御嶽パノラマラインと呼ばれ、大平展望台(標高一、四四六メートル)からは御嶽山や日本一長い溶岩流が一望できる絶景スポットとなっています。

終点の濁河温泉は、霊峰御嶽山の飛騨側登山口として知られ、標高一、八〇〇メートルでの通年営業温泉街としては、日本でも有数の高所温泉地で、秘湯ムードが漂い、原生林が生い茂る中、野趣豊かな温泉気分に入ることができます。

付近は、御嶽自然休養林に指定され、遊歩百選に認定された原生林遊歩道が整備され、森林浴や飛騨小坂二百滝の一つ「緋の滝」等の散策が楽しめます。

また、濁河温泉からは登山道を登ること三時間半で飛騨頂上・五の池小屋に達することができます。

平成十九年には高地トレーニング施設「御嶽パノラマランド」がオープン。全天候型トラック・ウッドチップランニングコースを擁するもので、付近の飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアの一角



御嶽山摩利支天乗越から飛騨頂上・五の池小屋を望む



飛騨小坂二百滝の一つ「緋の滝」

として、学生・実業団等の高地トレーニングの場として注目を集めています。



御嶽パノラマライン大平展望台から望む御嶽山



高地トレーニング施設「御嶽パノラマランド」

◎アクセス(濁河温泉)

▼お車でお越しの場合

国道四一号线から県道四三七号线、県道四四一号线経由で約一時間四〇分